



## 第15回 論語指導士 土屋学而（益男）（第百六号）新潟県

「お盆と論語」

今年も迎えるお盆は、先祖の霊をお迎えし供養をする大切な日本の文化である。お墓参りをすることは先祖祭礼であり、論語の中で説かれている「礼」にあたる。人間関係を重視する論語の「礼」は道德の基本であり、他の人に敬意を示す作法でもある。

八佾第三（12）に「祭如在、祭神如神在。子曰、吾不與祭、如不祭」

書き下し文は「祭ること在于すが如くし、神を祭ること神在于すが如くす。子曰わく、吾祭に與らざれば、祭らざるが如し。」と。孔子は自分自身が祭りに加わらなくてはと説いている訳で「ご先祖さんはいつも私たちとともにあり、真心を尽くして祭る」ことにあるのです。

論語の根底に流れる精神は「仁」の一文字に言い尽くされ「仁＝慈しみ、思いやり」の深い意味があり、それゆえ天皇家の男性皇族の名前に「仁」の文字が付けられ国民を我が子のように慈しみ、たいせつにされてきているのです。

国民は天皇に対し「忠」であり、親に対しては「孝」である。「忠」は公的な社会的道德で「孝」は私的な「家族道德」といえるでしょう。

平成から「令和」と新しい時代が既に始まっている。「令」は形が整っていて美しいさまを表すのに対し、論語で美しいことは「善」であるといわれています。

お孫さんを連れてお墓参りをし、ご先祖さんを迎えて語り合うことは道德の「体験的な学習」として学び得ることが大きいことでしょう。

論語を素読することで『人間にはいろいろな違いがあるけれども、それを乗り越えることができるようになり、相手に対し理解が深まり『して善いこと・して悪いこと』が身に付き、皆仲よく過ごすことができるようになるのではないのでしょうか。

「新しい生活様式」の中で相手に対して「礼」としての思いやりがあれば、クラスターの発生を抑えられるように思います。

令和の時代に古典としての論語を味わい、自分自身の人生を論語に重ね、子供たち孫たちに少しばかりの時間を割いて「礼」を受け継いでほしいものです。

「子曰く、學びて時に之を習う、亦説ばしからずや。」この解釈は「皆で礼を學び常に実践すれば、社会にとってとてもよろこばしいことですよ」と聞こえてくるのです。



活動内容は随時「[#いといがわ論語素読の会](#)」のブログで発信しています。

<http://rongosidousi.sblo.jp/> です覗いて見てください。

KW: 「いといがわ 論語」

## 「加地伸行からの百字答礼」

土屋学而様

いといがわ論語素読会のご盛会、同慶の至りです。今後の発展をお祈りしてやみません。儒教の宗教性の根本は祖先祭祀、道德性の根本は礼です。この二点の下に、孝・仁等々が並んでいます。